

第一回日本数学会関孝和賞受賞スピーチ

奥田 繁雄

(谷口工業奨励会四十五周年記念財団)

上記賞を谷口豊三郎氏が受賞されました。授賞式での奥田繁雄氏によるスピーチを掲載します。なお、同賞の創設及び谷口豊三郎氏の業績については「数学」47巻1号に掲載されています。(編集部)



谷口工業奨励会四十五周年記念財団の奥田繁雄氏
1995年3月28日立命館大学における授賞式

天の時，地の利，人の和をえて日本数学会の記念すべき第50回年会を開催されますことは誠にご同慶の至りでございます。故谷口豊三郎さんのご長男であり財団の常務理事である雄一郎さんの代理として財団の奥田が参上いたしました。

谷口さんは、まさに国際的なフィランソロピーのパイオニアの一人であると確信しております。晴れの第1回の日本数学会関孝和賞の受賞はご本人はもとより、谷口家の栄誉でもございま

す。ご本人が天国ではほえんでおられるお姿が眼に浮かんでくるようであります。

谷口さんと日本の数学界の関係をお話し申しあげるには、旧制の天王寺中学、三高以来の親友でありました秋月先生なしではかたりえないことでございます。昭和24年(1949)、敗戦下の私達日本人は衣食住の追求にのみ奔走し、物心ともに空しい時代でした。当時、京都大学の数学主任教授の秋月先生が数学教室の予算が年間8万円程度で手も足も出ない、何とか援助してもらえないかと谷口さんに相談された由でございます。間もなく、秋月先生自筆による申請書が京大の鳥養学長の手を経て財団に送られて参りました。ここに関心をもたれる研究者諸先生のため、その内容の一端を引用して秋月先生のありし日の情熱を追憶したいと思います。

曰く、その研究の目的と理由は「軌近、数学的見地よりする代数幾何学、及び多変数代数函数論の建設」が現代数学の最重要課題の一つであり、米国において著名なる数学者によって活発に進展しつつあるので、諸雑誌、単行本等を入手し、これらを教室にて各自が分担、研究し、早く消化し、以て我が国におけるこの方面の中心研究地として立ちたいと思う。既に申請者等は或る立場を獲得してその着想の下に独自の研究に着手しつつあり、その得たる結果を速やかに発表して外国の研究者と交歓することが急務であり、我々はこの方面の第一線に立って現代数学の進展に寄与した